

3月例会は「オフサイド・ガールズ」

2009年度総会は4月28日

例会のお知らせ

名称 / 第41回例会「オフサイド・ガールズ」

日時 / 3月24日(火) PM2:00 ~、PM4:20 ~、PM6:40 ~

場所 / 加古川総合文化センター大会議室 (JR 東加古川駅から北へ徒歩10分、車は加古川バイパス加古川東ランプ北へすぐ)

受付 / 入会手続きが終わっている方は、受付に同封の「例会参加券」をお渡しください。

入会手続きを行っていない方は、受付で4箇月分の会費(2000円)を支払い、入会手続きを終えてから、「例会参加券」をお受取りください。



【例会作品データ】

タイトル / オフサイド・ガールズ

監督 / ジャファル・パナヒ

出演 / シマ・モバラク・シャヒ、サファル・サマンダール、シャイヤステ・イラニ、M・キャラパディ、イダ・サデギ、ゴルナズ・ファルマニ、マフナズ・ザビヒ、ナザニン・セディクジャザデ

データ / 2006年、イラン、カラー、1時間32分、青春ドラマ / ヒューマン、16mm、第56回ベルリン映画祭銀熊賞(審査員特別賞)、第7回東京フィルムメックス アニエスパーアワード(観客賞)、第17回リュブリャナ国際映画祭 アムネスティ・インターナショナル最優秀作品賞

解説 / 女の子だって、スタジアムで観戦したい！イランで、サッカーは国民的なスポーツ。男性のみならず女性もみんなサッカーが大好き。けれど、女性がスタジアムで男性のスポーツを観戦することは法律で禁止されている。女性は専用のスタジアムで、

女子サッカーしか観戦ができないのだ。そんな中でも、イラン代表の2006年ドイツワールドカップ出場を掛けた大事な一戦が、首都テヘランで行われるとなれば、いくら女だからといってテレビの前でじっとしてなんかられない！少女たちが考えた策 それは、“男装”だった！「生で試合を見るには、男のフリをしてスタジアムに潜り込むしかない!!」ルールに逆らって進入禁止のスタジアムに踏み込んだ”オフサイド”な“少女たち”の奮闘が始まる！

1979年のイスラム革命以降、イスラム教の教えによって、西洋で考えられている「自由」のないイラン女性たち。もちろん、その全てが差別とはいえないにせよ、行き過ぎた規制が国際的に問題視されることもしばしばあった。また最近では、米で出版され150万部の大ベストセラーとなった「テヘランでロリータを読む」(アーザル・ナフィーシー)や、漫画「ペルセポリス」(マルジャン・サトラピ)をはじめとした、イラン人による「イラン女性の不自由さ」を描いた作品が増えてきており、国内外で人々の関心が高まっているのも事実。本作もその時流の中で、実際に国内で起きた事件にインスピレーションを得た監督が、イランの女性問題を扱いながらも、いかに多くの人に楽しんで観てもらえるかを追求して誕生した物語である。(以上、オフィシャルサイトから抜粋)

監督は、「白い風船」(カンヌ映画祭カメラドール(新人賞))、「チャドルと生きる」(ベネチア映画祭金獅子賞(グランプリ))のジャファル・パナヒ。

祝「おくりびと」アカデミー賞受賞

加古川シネマクラブにとって、この1年は、会員が大幅に減ってしまうし、12月の「歓喜の歌」上映会では少ない入場者数で寂しい思いをしたことなど、暗い日々が続いていた。

ところが、2月17日に協力事業として手伝った「おくりびと」の上映会に、なんと今までに経験したことのない1,200人以上の入場者を目の当たりにして、久々に賑やかなうれしい悲鳴をあげました。パニックになることを心配するくらいの盛況で、会場に来

た人にはいろいろご迷惑もおかけしたと思います。混雑で不愉快な思いをした方がおられましたら、お許しください。

そして、2月20日の第32回日本アカデミー賞授賞式では、「おくりびと」が、作品、監督、主演男優、助演男優、助演女優、脚本、撮影、照明、録音、編集の10部門の最高賞に選ばれた。その翌日からは、ワーナーマイカル加古川でも1日に1回の上映も始まった。ここまでは、想像の範囲内であったが、その後、想定外のことが起こった。

そう、日本時間で2月23日の昼頃、「おくりびと」が、映画の本場と言われている本場アメリカのアカデミー賞外国映画賞を受賞したのだ。ここから、マスコミ(特にテレビ)では、この作品を持ち上げ、観た人も観ていない人も、絶賛の声が吹き荒れた。普段は映画館に行かない近所のおばちゃんたちまでもが、グループで映画館に行くようになり、映画館は満席、1日1回の上映が4回となり、すごいことになっている。

観た人の感想も、「良かった」というものがほとんどで、うれしい反響である。これを機会に、みんなが日本映画を観るに映画館に足を運んで楽しい時間を過ごすようになることを願います。他の作品と比べれば、「おくりびと」は、ほんとうに幸せな作品だと思います。

また、短編アニメ賞は、加藤久仁生監督の「つみきのいえ」が受賞した。おめでとうございます。アカデミー賞が、エンターテインメント映画だけでなく、優れた映像文化の活動も評価していることを再認識でき、あらためて感心した。(宮)

定例総会開催のお知らせ

加古川シネマクラブでは、2009年度の定例総会を下記のとおり開催いたします。1年間の基本活動を決定する会議ですので、会員の皆さまには、ご出席いただきますようお願いいたします。

- 1 名称 2009年度加古川シネマクラブ定例総会
- 2 日時 4月28日(火)午後7時から 約40分間
- 3 場所 加古川総合文化センター会議室
- 4 内容 2008年度事業報告に関する事
2008年度決算に関する事
2009年度役員を選任に関する事
2009年度事業計画に関する事

2009年度予算に関する事

5 参加方法 直接会場にお集まりください。

6 その他 当日に出席できない方は、委任状(書面であれば形式を問いません)を提出することによって、出席する会員に議決等を委任することができます。

前回例会の報告

1月23日の例会では、「西の魔女が死んだ」を鑑賞しました。参加会員113人。

独特な雰囲気を持った作品だけに、好き嫌いが出るかもしれないと考えていましたが、参加者からは概ね好評でした。「わからない作品」という感想があったほか、「ワーナーマイカル加古川で上映された作品は外して欲しい」という意見がありました。今後の作品選定のときに参考にいたします。

例会作品の選定について

例会作品の選定については、半年に一度の例会選定会議で行うことにしています。しかし、参加者が運営委員に偏っていることと、会員数減少による例会作品借上げ料金を抑制するための作品変更が続いていること、を理由に、2009年前半は、あらためて例会選定会議を設定せず、運営委員会で選定することになります。

推薦する作品がありましたら、運営委員会に出席いただくか、アンケートやメールなどを通してお知らせください。

現在、手元には、「歩いてても歩いてても」、「幻影師アイゼンハイム」、「迷子の警察音楽隊」、「さくらんぼ 母ときた道」などが、候補として推薦されています。

ご意見をお待ちしています

映画の感想や意見など、このニュースへ記事をお寄せください。200~300字程度にまとめていただければ助かります。おすすめ作品をファックス、メールや例会会場のアンケート用紙でお知らせください。

加古川シネマクラブ 〒675-0101

加古川市平岡町新在家 752-46 B-313 山本方

TEL 090-9283-0435 FAX 078-935-8528

E-MAIL cinemaclub@nifty.com

<http://homepage3.nifty.com/cinemaclub>

会員数 160人(1月23日現在)